

注目ポイント！

小説「坂の上の雲」のまちづくりとスペシャル大河ドラマを活用した観光振興官民協働のまちづくり成果を活かした国際交流推進。

外国人観光客の倍増

約18,000人から約35,000人に！  
(平成7年) (平成17年)



道後温泉本館

コラム

松山は今、司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』をテーマに、フィールドミュージアムを展開している。石浜氏も、小説のメッセージである“みんなが夢や目標を持ち、それに向かって一生懸命に生きる”という気持ちを基本に、お遍路さんと地域との交流の場、遍路宿「坂本屋」を地元住民とともに再生するなど、資源を活用したまちづくりに奮闘している。



NPO法人NORA  
理事長  
石浜 典夫氏

これまでの経緯

- 平成 4年(1992) 松山城二之丸史跡庭園が開園する。
- 平成 6年(1994) 道後温泉本館が国の重要文化財に指定される。
- 平成13年(2001) 『坂の上の雲』まちづくり基本計画が策定される。  
伊予鉄道が“坊っちゃん列車”を復元し運転開始する。
- 平成16年(2004) 『坂の上の雲』のまち再生計画が認定される。
- 平成18年(2006) 松山城ロープウェイ駅舎が改築される。  
松山城二の丸史跡庭園や道後地区で「宵まち歩き 道後旅情」が実施される。  
ロープウェイ通りの景観が整備される。  
道後地区で観光おもてなし事業が実施される。

## 主な取り組み

### 『坂の上の雲』フィールドミュージアム

「『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり基本計画」を受け、フィールドミュージアムの“センターゾーン”にあるロープウェイ商店街では、景観整備のため電線の地中化、車道の1車線化にあわせての歩道拡張、店舗の色調や看板の統一化などに取り組んだ。

併せて、ロープウェイ駅も周囲の環境に調和した駅舎に改築。



ロープウェイ街の景観整備

### 『宵まち歩き 道後旅情』

まつやま国際交流センターやNPO等、民間活力を活かして、外国人観光客の受け入れ体制の構築に取り組み、民泊体験や着物に着替えてのまち歩きを実施。

また、二の丸史跡庭園の桜や城や石垣のライトアップにあわせて、外国人が気軽に参加できるイベントやパフォーマンスを実施。



着物に着替えてのまち歩き

### “坊っちゃん列車”の運行

平成13年10月、復活を望む地元の熱い声を受け、伊予鉄道が地域活性化の起爆剤として“坊っちゃん列車”を復元。懐かしさ溢れるレトロな蒸気機関車“坊っちゃん列車”が道後温泉と松山の中心市街地を時速10キロのスピードで走行する姿は観光客にも大好評。



市内を走る 坊っちゃん列車

### 道後地区の観光客おもてなし事業

小説“坊っちゃん”が発表100年を迎えるにあたり、様々な記念イベントを開催。ホテルや商店街の従業員が坊っちゃんやマドンナの衣装で観光客を出迎えたり、「マドンナと歩く湯の町ナイトウォーク」などを実施。



おもてなし事業

#### 問い合わせ先

松山市総合政策部坂の上の雲まちづくりチーム

Tel : 089 - 948 - 6995 <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

松山市産業経済部観光産業振興課

Tel : 089 - 948 - 6555 <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

財団法人松山観光コンベンション協会

Tel : 089 - 935 - 6711 <http://www.city-matsuyama.net/>